

潮騒

表浜地域への来訪者

片浜十三里と呼ばれる表浜海岸の中でも、紺碧の海と切り立つ深緑の崖が印象的な東部太平洋岸の景色は、何物にも代えがたいものがあります。そんな景色と海の恵みに誘われて、四季を通じて多くの人が訪れます。中には、その魅力にひかれて、移住する人も…。

CONTENTS

目次

- ◆特集「海が、つなぐもの」表浜地域への来訪者……………P.1
- ◆表浜むかし話「おばあちゃんの井戸塾」……………P.5
- ◆協議会の活動報告……………P.6
- ◆地域活動紹介「大草の歴史と文化を学ぶ会」……………P.7
- ◆平成19年度事業計画……………P.7

海が、つなぐもの



海が、
つなぐもの

[表浜地域への来訪者]



寄せては返す波のように、
表浜に訪れる多くの人。
せっかくだから、
ここをもっと好きになってもらって、
一緒に地域を守っていきたいね。

◆人をひきつける表浜

春から秋にかけて、表浜海岸はサーフィンや釣りなどを楽しむ人々の車でぎっしり埋まります。一体、どれくらいの人々が東部太平洋岸へ訪れているのでしょうか。

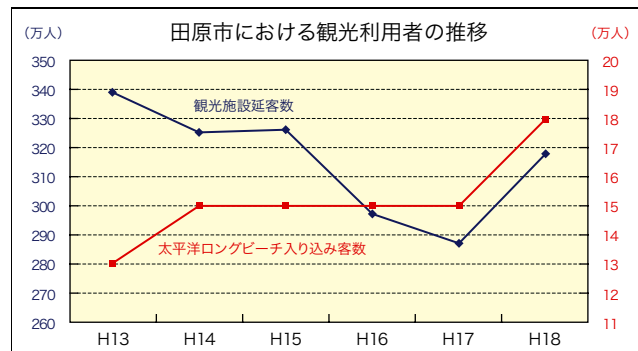
東部太平洋岸協議会が、平成17年12月に実施した海岸利用実態調査によると、久美原から大草までの7海岸で、年間約14万人の人が訪れているとの推計結果が出ています。

市外からの来訪者による利用形態としては、やはり近年ブームとなっているサーフィンが大半を占めており、最近では、サーフィン団体やサーフショップが主催する大会も年数回開かれています。そのほか、昔から根強い人気の海釣りや、地域主催による観光地引網などで、多くの人々が訪れています。



▲昔から表浜レジャーの「主役」の一つである海釣り(昭和50年頃の写真)

ここ数年の田原市全体への観光利用者数は、平成13年の339万人をピークに減少傾向にありますが、一方で、太平洋ロングビーチへの来訪者は右肩上がりで増え続けています。このことから、サーファーを中心とした表浜海岸の利用者は、当分の間、増加傾向が続くものと予想されます。



(愛知県観光レクリエーション利用者統計/田原市商工観光課資料)

◆「訪れる」から「住む」へ

近年、観光やレクリエーションを通して表浜と触れ合ってきた市外の人々が、その魅力から太平洋岸に移住するケースや、退職後に移住してこの地域の住みよさを実感するケースが見受けられるようになってきました。こうした現象は、人口減少や少子高齢化時代において、地域資源を活用した集落活性化を目指す上でのヒントとなるものでしょう。

移住者の声

表浜地域に移住した皆さんは、ここでの田舎暮らしにどんな感想を持っているのでしょうか。
皆さんの声を聞けば、きっとこの地域の魅力を再発見できるはず。

藤本和大さん・幹代さん [大阪府出身]

●南神戸と東赤石で飲食店を経営中

念願だった表浜地域への移住

—移住のいきさつは？

若い頃は、大阪から4、5時間かけて、月2回ほどサーフィンのためにこちらの海に通っていましたが、だんだん負担になってきたので、いっそこちらに住みたいと思うようになりました。それだけ、この海が好きでした。でも、いきなりの田舎暮らしだと妻の反応が心配だったので、一旦名古屋でお店を出してから、3年前に田原に来ました。今では、両親を呼んで一緒に暮らしています。家族全員、この地域が気に入っているようで、父も地域の清掃活動などに楽しんで参加しています。お店に来る方から野菜をいただくなど、人の温かさを実感しています。野菜も魚介類も、新鮮な食材が地産でまかなえる点は、この地域の大きな魅力ですね。

—表浜海岸はいかがですか？

表浜の景色は、本当に素敵ですね。サーフィンに適した波を探して、海岸を移動するのも楽しみの一つです。最近、伊良湖エリアは専門誌で何度も特集が組まれるなど、全国的に注目を集めています。今は千葉が中心ですけど、将来は、サーフィンといえば伊良湖エリアと言われるようになると思います。また、赤羽根から若いプロサーファーが2人誕生していますし、これからどんどんレベルが上がっていくと思います。注目されることで、マナーがもっと向上することでしょう。私の仲間は、みんな海を大事にするサーファーたちです。これからも、サーフィンをきっかけに、この地域に住み、働き、海を愛する人が増えるといいですね。



高橋力さん・禮子さん [秋田県出身]

●南神戸町在住

年配者の移住におすすめ

—移り住んだ感想は？

息子が田原で働いていて、一緒に住もうと言われ、3年前に移住しました。秋田の冬は厳しく、毎日の雪かきが大きな負担でしたが、こちらは温暖なのでそんな心配もいらず、気楽に過ごせることが何よりもうれしいです。四季を通じて花が咲くことや、年中野菜が栽培できることにも感動しています。自然も人も昔ながらで温かく、私たちの世代が移り住むのには最高の土地です。本当に来てよかったと思います。おすすめですよ。

—表浜海岸はいかがですか？

海にはいつも散歩で行っています。サーフィンを眺めたり、釣り人に声をかけたりして楽しんでいます。今では生活に欠かせない、身近な存在です。砂浜が減っていると聞いていますが、この素晴らしい景色がずっと残ることを願っています。



特集

海が、つなぐもの

◆来訪者との共存を

観光の活性化という面から、表浜への来訪者の増加は歓迎すべきことですが、一方で、地域の受け入れ態勢や、侵食・崩落対策など海岸の安全確保が大きな課題といえます。また、一部でバーベキューのゴミや花火の殻、釣具などが捨てられていることもあり、来訪者のマナー向上を呼びかける必要があります。



▲各地から訪れるレジャー客の安全確保を

しかし、表浜を訪れるほとんどの人は海を大事にしており、団体などによるビーチクリーンも盛んになってきています。地域と来訪者がもっと互いに理解し合い、海岸整備の促進などに関して、今以上に協力していくことが求められています。



石川紀佳さん

●東神戸でサーフショップ経営中

地元とサーファーの橋渡し役に

昨年、豊橋からこちらにお店を移転しました。この地域は、海と緑が溶け合った素晴らしい環境です。関東の人たちも、ここの砂浜はきれいだと口にします。でも、海岸侵食は心配です。私の学生時代と比べても目に見えて海岸線が後退しています。このままでは、次の世代が海と親しめなくなってしまうので、先進事例を参考に、何か良い侵食対策がとられればと思います。地元の方とは、積極的にお付き合いしていきたいと考えています。私が困りごとなどの窓口になって、地元とサーファーの橋渡し役になればと感じています。

◆都市⇄農村のライフスタイル

近年、農山漁村における地域資源を活用して、都市の人に農業などを体験・滞在してもらう農村ツーリズム（グリーン・ツーリズム）が全国的に盛り上がりを見せています。この地域でも、農業や表浜を組み合わせ、「ここしかない」という魅力をアピールすれば、潜在的な観光ニーズを呼び込む可能性があります。

また将来、営農支援策が充実し、移住者が新規就農できるような環境づくりが実現すれば、この地域にとって、人口維持や農業の担い手確保という面からも、可能性が広がっていきます。

●都市と農山漁村を行きかう生活について

[必要である]…78.4%

[関心がある]…52.3%

●農山漁村への定住願望について

[願望がある]…都市住民の20.6%

*内閣府「都市と農山漁村の共生・対流に関する世論調査」(H17)

入園者を募集中！

「谷ノ口ええぞん農園」

谷ノ口住民の手により、収穫などの農作業体験ができる体験農園が海岸道路沿いに開設されました。「ええぞんマーケット」と併せて、来訪者を活用した地域づくりにつながることが期待されています。



▲体験農園で苗植えに汗を流す谷ノ口の皆さん。

【お問い合わせ】

井筒進一さん（谷ノ口総合整備促進協議会）

090-5860-4915

海がはぐくんだ友情

谷ノ口地区が開設している「ええぞんマーケット」(毎週日曜日9:00~12:00)は、長野県飯田市の市民と農産物交流を行っています。関係者の声を聞いてみました。



飯田デッサン交友会講師・画家

山本拓也さん

●長野県飯田市在住

※自身が描いたマーケットの壁画と共に

海を使わせてくれることに感謝

—谷ノ口との出会いは？

豊橋で個展を開いたとき知り合った田原の人がいろいろ紹介してくれて、市民まつりにも出展することになりました。農産物も農家の作品という主旨で展示したのですが、そのとき谷ノ口の人にお世話になりました。その後、マーケットにも頻繁に顔を出すようになり、交流が広がっていきました。

—長野からは遠いんですよね？

15年以上前から、週1回はこちらへサーフィンに来ていたので、遠いとは感じません。農産物も、サーフィンで来たついでに車で運搬しているんですよ。もう、第2のふるさとですね。

—この地域への想いは？

皆さん、心を開いてありのまま付き合ってくれています。そうした付き合いの中から、ええぞんマーケットの壁画を描くことになりました。谷ノ口を象徴する自然をテーマにして、僕たちの交流のシンボルになっていると思います。僕たち他所から来る人間は、「海を使わせてもらっている」という感覚で、常にマナーをしっかり守っていないといけないと思います。やはりコミュニケーションは大事。僕らサーファーを受け入れてくれることに対していつも感謝しています。

谷ノ口総合整備促進協議会

水谷稔さん

●ええぞんマーケット担当

来訪者との共存を

—農産物交流のきっかけは？

サーフィンの帰り道に、彼らが立ち寄ったとき、「俺のリングを売ってくれないか」「おう、持って来いよ」という雑談を交わしました。そんな感じでざっくばらんに付き合いが始まりました。今では飯田のJA およびファームも一緒になって、季節の農産物交流を続けています。海と山、それぞれの特色ある農産物で、お客さんにも好評をいただいています。

—サーファーとの交流は？

谷ノ口が取り組んでいる地域活性化は、来訪者を活用した地域づくりということがテーマとなっています。ええぞんマーケット自体、農産物という地域の資源を使ってお客さんと交流を図ることが目的です。もちろん、海岸に訪れるサーファーとの共生もその一つです。谷ノ口で集落整備や海岸清掃を行うときは、山本君たちにも声をかけて参加してもらっています。とても一生懸命やってくれるので、海を大事にする気持ちが伝わってきます。マーケットに描いてもらった壁画は、彼らとの飾り気のない友情の証と言えるのではないのでしょうか。



「おばあちゃんの井戸塾^{じゅく}」

山田もと

「ただいま。ああ、やだやだ。きょうは塾行くのいやだなあ。」

としくんはランドセルをほうりだし、くつをけとばして汗をふいた。

「まあ一休みおし、おやつたべながら。」

おばあちゃんは台所で、そら豆の皮をむきながら、のんびりだ。としくんはジュースを一気に飲んで、

「おばあちゃん、塾行ったことある。」

「塾、塾って、何せる所だえ。」

「やだおばあちゃん、塾しらないの。学校帰ってから勉強するところだよ。」

「ああそっか。そんなら毎日行ったよ。」

「へえ、どこの塾へ。」

「おばあちゃんの塾は井戸、井戸塾よ。」

「井戸？井戸塾…どこにあったの。」

「昔会場といった、今の公民館の構。」

「へえ、何の勉強？ 国語？算数？」

「国語、算数、理科、社会、水汲み。」

「なあーんだ、お手伝いか。」

「そや、昔は水道がないでの、ふろ水汲みは子どもの仕事よ。井戸塾はなんでも教えてくれたよ。まず“一ぱいよんどくれましよう”^{*1}ってゆってから汲むだ。あやちやも、つうさ^{*2}も、みんなそうだ。」

「そんなの勉強じゃあないよ。」

「そこの井戸水は茶色での、なぜだろ。」

「わかんないよ。そんなこと。」

「鉄分が多かったんだよ。だから飲み水はこして使うだ。こしがめという大きなかめに、しゅろの皮をしき、炭を並べ、涙のまさご^{*3}を入れて、その上に瓦をおくだ。その中へ水を汲み入ると、下の穴からでる水はすすん^{*4}にすんどるだ。そのこし方、理科のテストにでたんだよ。おばあちゃん百点さ。」

「すごーい。まだ百点ある？」

「あるよ。竹ざおにつるべをつけて、井戸の中へするすーと入れるだろ。つるべに力を入れて水の中に沈ませて水をいっぱい入れる。さて引き上げる時、水の中のうちは軽いのに、水からはなれたとたんに重くなる。なーぜだ。」

「あ、それ浮力^{ひりょく}、理科でならったよ。」

「えらい、としくんも百点だ。毎日姉ちゃんと、棒のまん中へいなえ^{*5}をつりさげて水を汲みながら、歌も歌ったし算数もした。でも、おばあちゃんも井戸塾なまけて、遊んでしまったことがあったよ。暗くなって帰って、だれか水汲んどいてくれたかなと思ったのにだめだった。おっかさんに大目玉、姉ちゃんにも怒られながら、しおしお^{*6}水汲みに行ったよ。夜の井戸塾にやだれもおらん。お星様がきれいでのう。」

「おばあちゃん、ぼく塾へ行ってくる。」

としくんはかけだしていった。



* 1【一ぱいよんどくれましよう】:一ぱいくださいな
* 2【あやちやも、つうさも】:あやちゃんも、つうさんも
* 3【まさご】:表浜の細かい砂
* 4【すすん】:すごく透明な様子
* 5【いなえ】:かつき襦
* 6【しおしお】:しょんぼり

【井戸は社交場?】

水が貴重だった昔は、「井戸端会議」という言葉があるように、共同井戸の周りに自然と人々が集まりました。現代でも、7Pでご紹介している大草の取り組みのように、井戸を中心に交流の輪が広がっています。

「みんなで考え・行動する地域づくり」

田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会の概要

◆会長あいさつ◆

本協議会の活動も10年を経過し、基本構想・基本計画の実現に向け、少しずつですが、歩みを進めてまいりました。基本計画の拠点整備地区である谷ノ口におきましては、いよいよ森林レクリエーション公園の整備計画が動き出しており、地域全体として、その実現が大いに期待されているところであります。

今後、ますます市民と行政の協働が求められる中で、本協議会も行政とのパートナーシップをより一層深め、着実に取り組みを進めて参りたいと考えています。

田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会

会長 高橋昭好

◆協議会活動の経過◆

- H8.1 協議会発足
- H8.3 沿岸部に関する地元要望作成
- H9.3 基本構想「サングリーン21」策定
- 方向性▶
 - ・自然環境の保全と活用
 - ・農業基盤・農村環境の整備
 - ・観光・レクリエーション施設の整備
 - ・幹線道路の整備
- 展開▶
 - ・太平洋岸の魅力を発信するイベントの開催
 - ・海浜・崖森・農地エリアのエリア別の整備促進
 - ・渥美半島全体の連絡調整
 - ・関係機関への要望運動等の展開
- H9.11 専門部会設置
- H10.3 海浜・崖森エリアの基本計画策定
- H10.10 農地エリア整備の地元検討書作成
- H10.11 第1回表浜自然ふれあいフェスティバル開催(以後毎年開催)
- H14.9 環境保全啓発看板の設置(大草海岸を始め6箇所の海岸に設置)
- H14.11 海浜拠点整備地区の選定(谷ノ口地区)
- H15.3 ええZONEガーデン整備計画策定(谷ノ口総合整備促進協議会)
- H16.7 国土交通省事業一地域振興アドバイザーを受け入れ()
- H17.3 谷ノ口地区整備基本計画策定()

◆協議会組織◆ [平成19年10月現在・順不同]

役員	会長	高橋昭好(東部校区総代)
	副会長	横田克彦(神戸校区総代)、田中義道(大草校区総代)、多田辰郎(六連校区総代)
委員	市議会議員	伊与田知養、赤尾昌昭、彦坂雄三、角谷敏夫
	漁業関係者	富田 實(神戸漁業協同組合長)、松井一光(六連漁業協同組合長)
	市農業委員	安田和司、水谷正幸、富田政彦、西山好孝
	市役所	菰田稀一(副市長)、川口 侃(教育長)、富田美義(経済部長)、林 勇夫(建設部長)、讃岐俊宣(都市整備部長)
顧問	鈴木克幸(田原市長)、鈴木愿(愛知県議会議員)、伊藤欣夫(JA愛知みなみ農業協同組合代表理事組合長)	
事務局	田原市役所総務部(企画課)、彦坂善弘(総務部長)	

●表浜自然ふれあいガーデン 実現に向けての動き

ハード事業

◆海岸整備(県事業)

◇海岸保全事業(傾斜護岸):百々海岸(H19) ◇海岸治山事業:8箇所要望中

◆拠点地区の整備促進(市事業)

◇公衆便所整備事業:谷ノ口海岸(H9)・大草海岸(H10)・百々海岸(H11)・東ヶ谷海岸(H13)
 ◇海岸駐車場事業:大草海岸(H11)・百々海岸(H12)
 ◇道路整備事業:南谷ノ口1号線改良(H15)・寺前上り口線拡張(H16~H18)・高畑谷ノ口線改良(H17)・谷ノ口海岸線拡張(H17~)・R42公民館前交差点改良(H18)
 ◇公園整備事業:(仮称)谷ノ口森林レクリエーション公園整備(H18~)

ソフト事業

◆表浜自然ふれあいフェスティバル(協議会事業)

◇メイン海岸:H10谷ノ口海岸・H11大草海岸・H12百々海岸・H13東ヶ谷海岸・H14大草海岸・H15百々海岸・H16分散開催・H17大草海岸・H18百々海岸

◆表浜のレクリエーション

◇健康ウォーキング大会(市教育委員会):H10東ヶ谷海岸・H11大草海岸・H14谷ノ口海岸・H15百々海岸
 ◇ふれあいウォーキング大会(六連青少年健全育成):H13六連海岸

多額の予算を必要とする海岸保全事業の継続的な実施には、国土保全・防災面に加え、表浜海岸の持つ多面的価値の創造を行い、投資効果の向上を図る必要があります。

●農地エリアの整備 実現に向けての動き

ハード事業

◆農村・農地の整備(市事業)

◇農村総合整備:神戸地区(H12~H16)・大草、高松地区(H18~)・東部地区(H19~)
 ◇農用地基盤整備事業:谷熊新田排水対策(H19調査計画) ◇農地・水・環境保全向上対策

ソフト事業

◆農地基盤に関する実態調査(市事業)

◇農地基盤再整備に関する調査:H11表浜全域

道路・排水・農地区画・ため池などの農業基盤に加え、集落環境を含め総合的な整備促進を図ります。

郷土が大好きです！ ～大草の歴史と文化を学ぶ会～



▲井戸を見つめる（右から）太田良治さん、富田秀穂さん、横田弘道さん。藤原喜郎さんを加えた4名が、学ぶ会の創始者です。



▲きれいに整備された宝幢寺井戸の周辺。作業のみでなく、場所や資材もすべて地域住民のご好意で提供されているそうです。

「大草校区の歴史を子どもたちに語り継ぎたい」「地元を大事にする気持ち、相手を想う気持ちを伝えていきたい」という思いで、2年前に4人で始めた活動も、今では45名ものメンバーに。室町時代の武将で、応仁の乱に参加し晩年を大草で過ごした「一色七郎」を中心に、弥生時代の「御園遺跡」、平安～鎌倉時代の「惣作古窯」などをテーマに、大草の歴史研究を進めています。

最近では、一色七郎を弔うために1481年ごろに建てられた「宝幢寺」跡の井戸を保存するため、100人以上のボランティアの手により、周辺整備が行われました。お披露目かねて催した子どもたちへのお話し会は好評で、今後もこうした取り組みを続けていきたいとのこと。また、「大草史」に歌詞だけ記されていた「大草の唄」のメロディを知っている人を見つけ、大草小学校の先生に譜面におこしてもらうなど、その活動は広がりを見せています。

「昔の歴史を知っている年配の方が健在なここ10年のうちに、できる限り記しておきたい」と語る会員の皆さんの、ふるさとを愛する気持ちが地域の共感を呼んでいる様子が伝わってきます。

平成19年度事業計画

主要事業

第10回表浜自然ふれあいフェスティバル

日時 平成19年11月10日(土)

午前9時～午後1時

※悪天候の場合は12月1日(土)に延期

場所 久美原～大草の表浜一帯

※親睦会場は東ヶ谷海岸

内容 海岸清掃、地引網(予定)、レクリエーション、特産鍋の無料提供ほか

目的 表浜海岸の魅力、海岸侵食などの現状を広くPRすることで海岸整備の促進を図る

推進事業

農村総合整備事業[大草・高松地区…実施設計]

[東部地区…調査計画]；田原市役所経済部農政課

海岸治山事業；愛知県東三河農林水産事務所

海岸護岸整備[百々海岸]；愛知県東三河建設事務所

海岸進入道路整備[谷ノ口地区]；田原市建設部土木課

森林公園計画[谷ノ口地区]；田原市都市整備部公園緑地課

沿道花壇整備[谷ノ口地区]；田原市都市整備部公園緑地課

第9回 表浜自然ふれあいフェスティバル

H18
11.11
開催



あいにくの天候でしたが、約1800名の参加者が、久美原海岸～大草海岸までの海岸清掃・ごみ拾いを実施しました。参加者たちは、清掃活動後の親睦会場となった百々海岸で、地域の女性が振る舞った無料の特産鍋に舌鼓を打ちながら、交流を深めました。

★表浜情報誌「潮騒」や「協議会活動」に対するご意見・ご要望・ご感想をお寄せください。

【発行】田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会（事務局：田原市役所企画課）〒441-3492 愛知県田原市田原町南番場30-1 TEL0531-23-3507

この冊子は再生紙を使用しています。